

製品名: LBP ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab13238**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:50-1:300,ELISA 1:2000-1:20000
分子量	53kDa

抗原情報

遺伝子名	LBP
別名	LBP; Lipopolysaccharide-binding protein; LBP
遺伝子 ID	3929.0
SwissProt ID	P18428
免疫原	抗血清はヒト LBP 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 221-270

背景

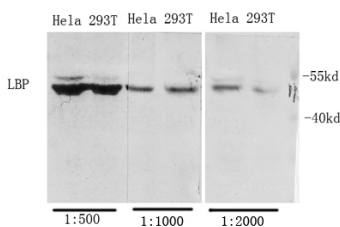
リポ多糖結合タンパク質 (LBP) ホモサピエンス この遺伝子によってコードされるタンパク質は、グラム陰性細菌感染に対する急性期免疫応答に関与している。グラム陰性細菌は、細胞外壁に糖脂質のリポ多糖 (LPS) を含んでいる。コードされているタンパク質

は、殺菌透過性亢進タンパク質 (BPI) とともに LPS に結合し、CD14 受容体と相互作用して、おそらく LPS 依存性単球応答の調節に関与している。マウスの研究では、コードされているタンパク質は LPS に対する急速な急性期応答には必要だが、循環からの LPS のクリアランスには必要ではないことが示唆されている。このタンパク質は、BPI、血漿コレステロールエステル転送タンパク質 (CETP)、リン脂質転送タンパク質 (PLTP) など、構造的および機能的に関連するタンパク質のファミリーに属している。 [RefSeq 提供、2012 年 4 月]、機能: 細菌性リポ多糖類 (LPS) の脂質 A 部位に結合する。LPS は全てのグラム陰性細菌の外膜に存在する糖脂質である。LBP/LPS 複合体は CD14 受容体と相互作用すると考えられる。類似性: BPI/LBP/Plunc スーパーファミリーに属する。BPI/LBP ファミリー。

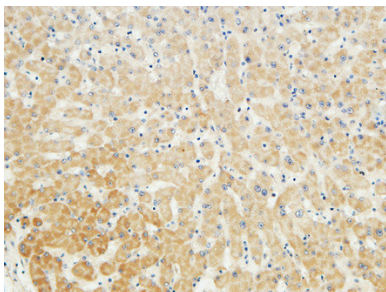
研究分野

有料道路のような;

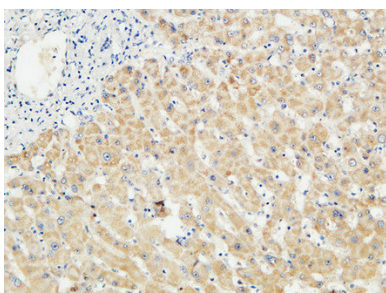
画像データ



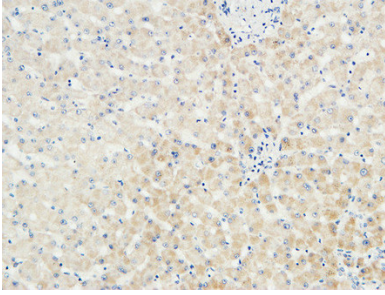
1:1000 に希釈した抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット解析。二次抗体は 1:20000 に希釈した。



パラフィン包埋ヒト肝臓の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:100 に希釈 (4°、一晚)。2、高圧高温 EDTA (pH8.0) を使用して抗原賦活化。3、二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30 分)。



パラフィン包埋ヒト肝臓の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:100 に希釈 (4°、一晚)。2、高圧高温 EDTA (pH8.0) を使用して抗原賦活化。3、二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30 分)。



パラフィン包埋ヒト肝臓の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:100 に希釈 (4°、一晚)。2、高圧高温 EDTA (pH8.0) を使用して抗原賦活化。3、二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30分)。